

飼料中のフモニシンの家畜等への移行調査(※1)の結果

| 畜種 | 供試動物 | 投与材料 | 投与量/飼料中濃度 | 数/群 | 試料 | 投与方法 | 投与期間 | 採材 | 所見 | 結果 |
|----|----------------------------------|---------------------|---|---------------------------------|----------------|--------|------|--|---|-------------------------------|
| 牛 | 搾乳牛(品種:ホルスタイン、導入月齢39-59か月齢、性別:雌) | FB1(99.28%) | 0、300 mg/日 (1日飼料摂取量を20 kgとして、15 mg/kg = 15 ppm) | 対照区1頭、15 ppm区3頭 | 乳汁、筋肉、肝臓、腎臓、脂肪 | 強制経口投与 | 28日間 | ・乳汁は、試験1、2、3、5、7、14、21及び28日に採取 ・臓器及び組織は試験29日の朝に採材 | ・供試牛の乳量、増体重、飼料摂取量、健康状態及び血液検査結果に異常は認められなかった。 | いずれの試料においても定量限界未滿かつ検出限界未滿(※2) |
| 豚 | 肉用豚(品種:LWD、導入時7週齢、性別:雄及び雌) | FB1(99.72%及び99.28%) | 飼料中濃度:0 ppm、1 ppm、2 ppm及び5 ppm (1頭あたり2,500 g/日 給与) | 対照区1頭、1 ppm区、2 ppm区及び5 ppm区に各3頭 | 筋肉、肝臓、腎臓、脂肪 | 混餌投与 | 28日間 | ・試験28日目の夕刻に採血及び臓器及び組織を採材 | ・一般臨床症状、増体重、飼料摂取量について、対照区と比較して顕著な差は認められなかった。 ・血液学的検査では、赤血球数、ヘマトクリット値が文献的正常範囲よりも高値を示す個体が散見され、5 ppm区の2頭では脱水傾向であったが、臨床症状に異常は認められなかった。 ・血液生化学的検査では、肝機能の総ビリルビンと総コレステロール値において添加区で用量依存的な高値を示す傾向があったが、臨床症状に異常は認められなかった。 | いずれの試料においても定量限界未滿かつ検出限界未滿 |
| 鶏 | 採卵鶏(品種:ボリスブラウン、導入時日齢259日齢、性別:雌) | FB1(99.72%) | 飼料中濃度:0 ppm、1 ppm (1 mg/kg)、2 ppm及び5 ppm(1羽あたり120 g/日 給与) | 対照区、1 ppm区、2 ppm区及び5 ppm区に各6羽 | 鶏卵、筋肉、肝臓、腎臓、脂肪 | 混餌投与 | 28日間 | ・試験1、2、3、5、7、14、21及び28日に鶏卵を採取 ・臓器及び組織は29日目の午後に採材 | ・供試鶏の産卵率、増体重、飼料摂取量及び健康状態のいずれにも異常は認められなかった。 | いずれの試料においても定量限界未滿かつ検出限界未滿 |

食品安全委員会事務局まとめ

※1 平成27年度生産資材安全確保対策事業「飼料中のフモニシンの家畜等への移行調査委託事業」(農林水産省)

※2 定量限界: 30 µg/kg、検出限界: 9 µg/kg